

株式会社群馬銀行
2027年3月期第1四半期
決算の概要

2026年8月3日



～私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます～

(東証プライム：8334)

群馬銀行レポート2026
GUNMABANKREPORT



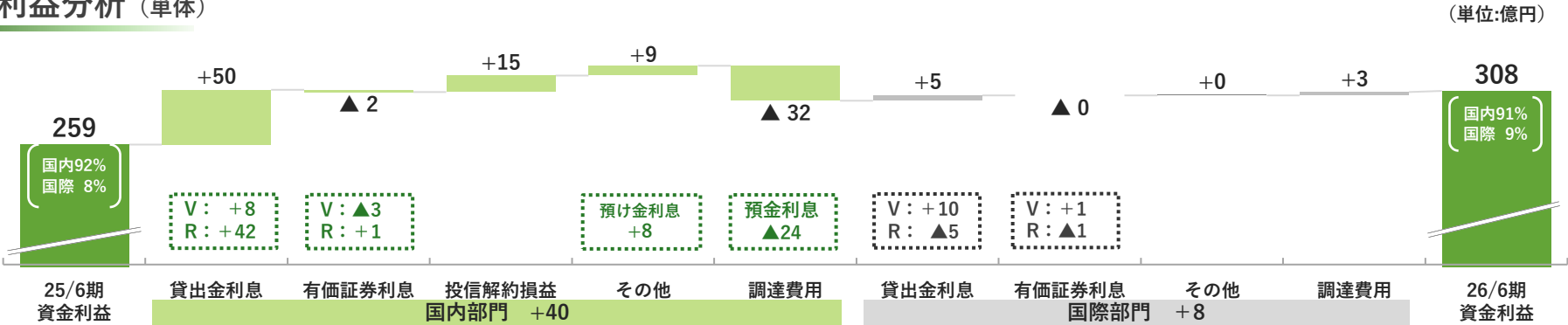
損益状況

親会社株主に帰属する四半期純利益は、資金利益の増加を主因に25/6期比 + 35億円の175億円。
年間計画（650億円）に対する進捗率は27.0%。

決算概要

(単位：億円)					(単位：億円)				
<連結>	1Q 26/6期	25/6期比	年間計画 27/3期	計画 進捗率	<単体>	1Q 26/6期	25/6期比	年間計画 27/3期	計画 進捗率
コア業務粗利益	387	59	1,467	26.4%	コア業務粗利益	363	53	1,362	26.7%
資金利益	305	47	1,117	27.3%	資金利益	308	48	1,130	27.3%
投信解約損益	33	15	—	—	投信解約損益	33	15	—	—
投信解約損益除き資金利益	272	32	1,117	24.4%	投信解約損益除き資金利益	275	33	1,130	24.3%
非金利業務利益	81	11	350	23.2%	非金利業務利益	54	4	233	23.5%
経費	157	10	647	24.3%	経費	149	8	617	24.2%
コア業務純益	229	49	820	28.0%	コア業務純益	214	45	745	28.7%
投信解約損益除き	196	34	820	23.9%	投信解約損益除き	180	30	745	24.2%
与信費用	2	▲ 5	55	4.9%	有価証券関係損益	9	▲ 9	132	7.2%
経常利益	251	51	950	26.5%	与信費用	1	▲ 5	50	3.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	175	35	650	27.0%	その他	14	6	53	26.7%
					経常利益	236	48	880	26.8%
OHR（投信解約損益除き）	44.4%	▲3.2%	44.0%	—	四半期純利益	165	33	600	27.5%
ROE（年率換算）	11.3%	1.4%	10.5%	—					

資金利益分析（単体）



貸出金の状況

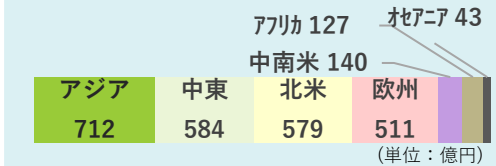
貸出金残高は、クロスボーダーローン、ストラクチャードファイナンス、海外店で高い伸び。利回りも順調に上昇。

貸出金残高状況

	26/6末	26/3末比 増減額(増減率)	25/6末比 増減額(増減率)	貸出先別RORA ()は25/6期比	貸出先別ROA ()は25/6期比
貸出金	72,277	15 (0.0%)	3,857 (5.6%)	— —	— —
大企業	11,017	63 (0.5%)	746 (7.2%)	2.07% (+0.60pt)	0.50% (+0.11pt)
中堅・中小企業	27,260	▲ 283 (▲1.0%)	705 (2.6%)	1.28% (+0.30pt)	0.70% (+0.15pt)
個人	25,992	135 (0.5%)	929 (3.7%)	— —	— —
うち住宅ローン	15,481	128 (0.8%)	729 (4.9%)	1.70% (+0.36pt)	0.32% (+0.07pt)
うちアパートローン	7,066	1 (0.0%)	108 (1.5%)	1.04% (+0.23pt)	0.45% (+0.05pt)
うち無担保消費者ローン	890	20 (2.3%)	76 (9.3%)	1.91% (▲0.09pt)	0.41% (▲0.03pt)
クロスボーダーローン	2,696	4 (0.1%)	403 (17.5%)	3.24% (+0.93pt)	0.91% (+0.26pt)
ストラクチャードファイナンス	2,620	209 (8.6%)	832 (46.5%)	1.43% (+0.39pt)	1.01% (+0.27pt)
海外店	1,703	▲ 102 (▲5.6%)	288 (20.3%)	1.64% (+0.31pt)	0.41% (+0.08pt)
その他（公共等）	986	▲ 10 (▲1.0%)	▲ 48 (▲4.7%)	— —	— —

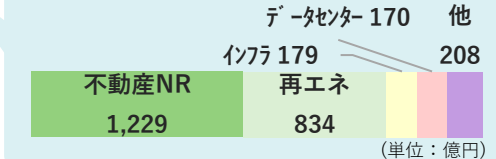
クロスボーダーローン

- ・地域分散の効いたポートフォリオ構築。
- ・中東向け新規与信は現在停止中。足元のポートフォリオに問題はない。

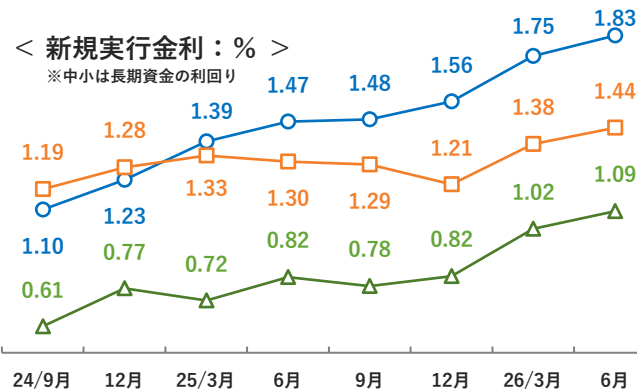


ストラクチャードファイナンス

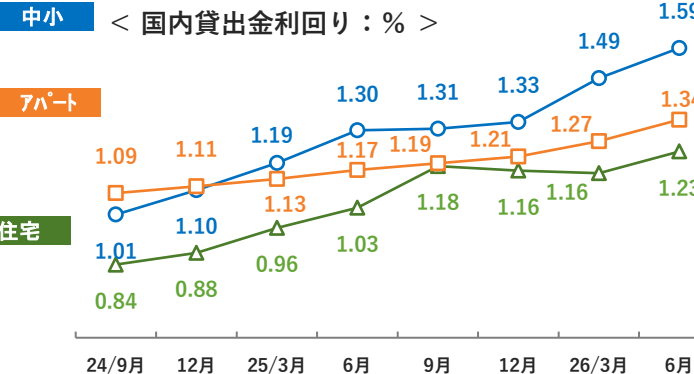
- ・不動産ノンリコース中心に増加。（シニアが中心でLTVは6割程度）
- ・国債リパッケージローンの取扱いなし。



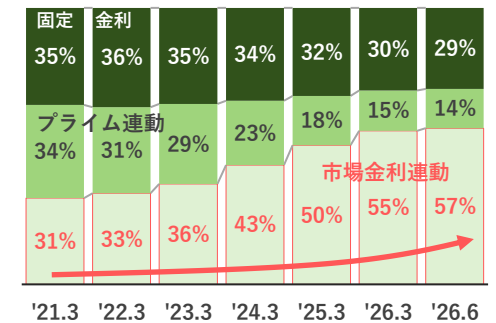
利回り状況



国内貸出金利回り：％



（参考）法人貸出の金利タイプ別割合



預金の状況

預金は、法人預金を中心に堅調に増加。個人預金の増強に向けて、魅力的な預金商品の提案や全資産アプローチの活用を通じて、粘着性の高い預金獲得をめざす。

預金残高内訳

(単位：億円)

	26/6末	26/3末比 増減額(増減率)	25/6末比 増減額(増減率)
預金等	89,196	1,305 (1.4%)	1,004 (1.1%)
預金合計	86,833	1,122 (1.3%)	908 (1.0%)
うち国内預金	85,724	1,633 (1.9%)	1,439 (1.7%)
うち個人預金	57,987	390 (0.6%)	186 (0.3%)
(主体別) うち法人預金	22,675	1,034 (4.7%)	1,116 (5.1%)
うち公金預金	4,467	322 (7.7%)	211 (4.9%)
(種類別) うち流動性	66,712	981 (1.4%)	422 (0.6%)
うち固定性	18,489	637 (3.5%)	959 (5.4%)
(地域別) うち群馬県内	68,939	978 (1.4%)	696 (1.0%)
うち群馬県外	16,438	641 (4.0%)	726 (4.6%)
海外店預金	1,109	▲ 510 (▲31.5%)	▲ 530 (▲32.3%)
譲渡性預金	2,363	182 (8.3%)	96 (4.2%)

預金の残高計画 (27年3月末：年率+3%目標)

(単位：億円)

残高計画	26/3期実績	27/3期計画	増加額 (年率)
国内預金	84,090	86,885	+2,794 (+3.3%)
うち個人	57,596	58,810	+1,213 (+2.1%)
うち法人	21,641	22,670	+1,028 (+4.8%)

個人預金増強

顧客セグメント別に戦略的に金利設定

**プレミアム
定期**
<富裕層>

**ライフイベント
応援定期**
<マス層>

<2月導入～直近(7/13)の預入実績>
プレミアム280億 / ライフイベント 42億
※1Q(4～6月)では合計210億の預入

新潟ブランド米「美四季」
プレゼント定期

✓第4北越FGとの連携で実現
✓金利以外の付加価値提供で魅力向上へ
(7月17日～取扱開始)



法人預金増強

貸出シェアに見合った預金取引推進
(マーケットが大きい首都圏は伸び率高く、継続して推進)

個人預金増強に向けた取組み・アプローチ

粘着性の高い預金基盤の確立

短期(預金獲得)

顧客セグメント別の
預金商品の提案

中期(自然流入)

当行口座のメイン化
(給振や年金など)

長期(定着)

利便性・おトク感の向上
(アプリ拡充やATM優遇等)

粘着性の高い
預金基盤確立へ

資産管理型営業の実践

全資産アプローチ

他行預金や不動産など
お客さまの全資産を把握

ゴールの共有

お客さまの将来の目標や
ライフプラン等ゴールを共有

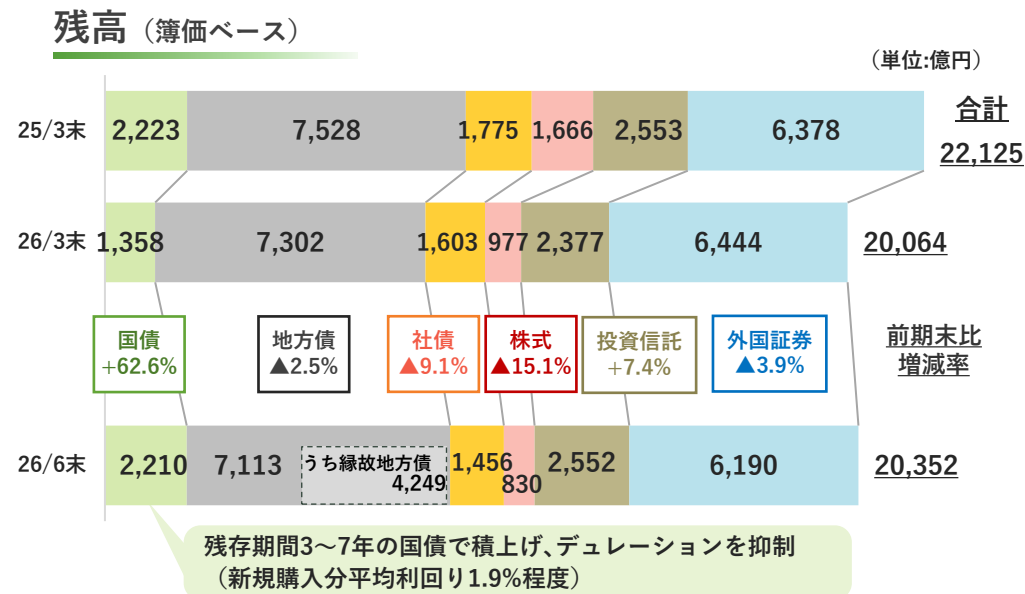
資産管理型営業

長期目線で預金含めた
ポートフォリオ全体の提案

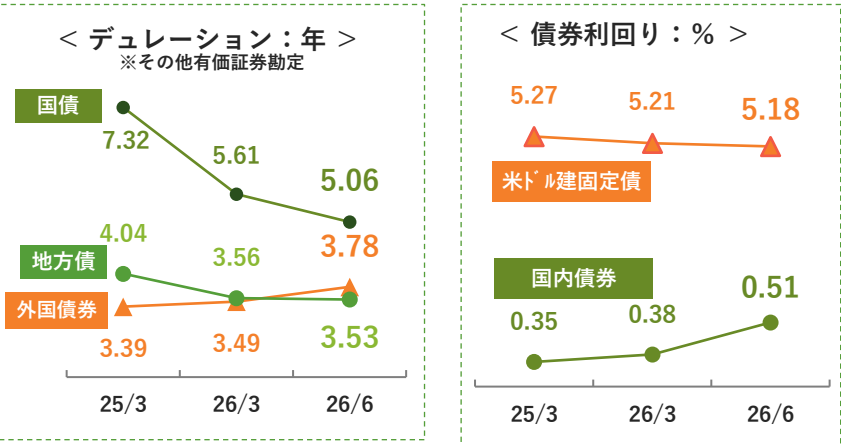
お客さまの安定的な資産形成
×
当行の持続的な成長
フロー収益からストック収益へ

有価証券の状況

金利動向を踏まえ**国債投資**を再開。また、投信解約益（国内債券ペアファンドの入替実施）を低利回りRMBSの一部売却に充当。



各種指標



評価損益（BS）

（単位：億円）

	26/3末	26/6末	26/3末比
其他有価証券	1	117	+ 116
国内債券	▲ 736	▲ 727	+ 8
（国債）	▲ 127	▲ 134	▲ 7
（地方債）	▲ 336	▲ 333	+ 3
（RMBS ※社債）	▲ 264	▲ 252	+ 12
その他	737	844	+ 107
外国証券	94	92	▲ 2
投資信託他	▲ 121	▲ 95	+ 26
株式	764	847	+ 83
（政策投資）	784	863	+ 78
（純投資）	▲ 20	▲ 15	+ 4

関係損益（PL）

（単位：億円）

	25/6期	1Q 26/6期	25/6期比
合計（①+②）	37	42	+ 5
其他有価証券①	18	9	▲ 9
債券関係損益	▲ 69	▲ 34	+ 34
うち売却損	▲ 70	▲ 34	+ 36
（うち国内債）	▲ 70	▲ 33	+ 36
株式等関係損益	88	44	▲ 44
うち売却損益	88	44	▲ 44
（政策投資）	55	20	▲ 35
（純投資）	32	23	▲ 8
投信解約損益②	18	33	+ 15

非金利業務利益／経費／与信費用

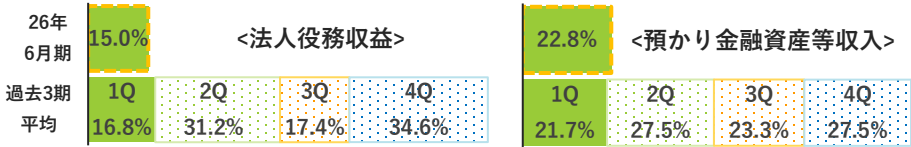
非金利業務利益は前年同期比11億円の増加。経費は人件費など戦略テーマの強化を継続。与信費用は低位安定。

非金利業務利益（連結）

	26/6期	25/6期比	年間計画 27/3期	進捗率
非金利業務利益 合計	81.3	11.9	350	23%
法人役務収入	20.9	2.9	139	15%
うち シンジケートローン	2.2	▲ 0.2	23	9%
うち ビジネスマッチング	2.5	0.3	13	18%
うち SDGs関連	1.8	▲ 0.1	16	10%
うち デリバティブ	6.4	1.8	38	16%
うち ぐんぎんコンサル	2.4	0.2	8	29%
預かり金融資産等収入	25.9	6.5	114	22%
うち 投信取扱手数料	6.1	1.9	25	24%
うち 保険販売手数料	5.6	▲ 1.2	25	21%
うち ぐんぎん証券	12.9	5.5	54	23%
その他	34.4	2.4	97	35%
うち 団信配当金	16.3	▲ 1.1	18	88%
うち 基盤(内国為替等)	21.3	0.1	83	25%

非金利業務利益（主な取組み）

1 Qは例年水準の進捗でスタート。積上げに向け推進を加速。



※収益の計上時期を四半期別に表示。

為替デリバティブの推進 本格稼働

- ・4月 本部人員増強し推進・管理態勢を構築。
- ・7月 中核店、埼玉南部・京浜地区の営業店等で取扱スタート。純預金先へもアプローチ。
- ・地銀トップクラスのノウハウ有する第四北越FGをベンチマークに推進。

全資産アプローチによる資産管理型営業の実践

- ・ぐんぎん証券による高い専門性を活かすため、銀行から証券へ送客を継続。グループ全体で顧客セグメントに応じた最適な提案体制を構築。当行以外の資産も含めた全資産を顧客からヒアリングし、資産管理を中心とした提案を実践。

経費（連結）

	26/6期	25/6期比	主な増減要因
経費	157	+ 10	
人件費（単体）	81	+ 4	ベア・賞与+4 他
物件費（単体）	58	+ 3	外注+2.2、広告宣伝+0.6、預金保険▲0.5他
税金（単体）	9	+ 0	消費税+0.4
連結子会社	13	+ 2	証券+1.4、リース+0.4 他
（連結相殺）	▲ 5	▲ 0	—

与信費用（連結）

	25/3	26/3	26/6	27/3(計画)
与信費用	31	34	2	55
群馬銀行（単体）	23	32	1	50
一般貸倒引当金繰入額	▲ 11	0	▲ 3	1
実績率変動	(▲ 2)	(▲ 2)	—	—
DCF	(▲ 3)	(6)	(▲ 1)	—
その他	(▲ 6)	(▲ 4)	(▲ 2)	(1)
不良債権処理額	37	36	4	49
ランクダウン	(63)	(50)	(6)	(60)
回収・ランクアップ等	(▲ 30)	(▲ 25)	(▲ 4)	(▲ 15)
その他	(4)	(11)	(2)	(4)
償却債権取立益（▲）	2	4	0	—
連結子会社分	7	2	1	5
（連結相殺）	▲ 0	▲ 0	▲ 0	▲ 0



本資料は、情報の提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。本資料に記載された事項の全部又は一部は予告なく修正又は変更されることがあります。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意下さい。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社群馬銀行 総合企画部（IR担当）

TEL : 027-254-7051・7053 E-mail : gbir@gunmabank.co.jp